

モモホモプシス腐敗病

英名 : Phomopsis rot

病原 : *Phomopsis* sp. (不完全菌類)



被害果実

生態と防除

発症部位 : 果実、枝

発生の経過 : 衰弱枝、枯死枝や果梗痕、剪定痕に本菌が侵入、寄生して越冬し、春になると柄胞子を形成する。幼果期から収穫直前まで果実へ感染し、柄胞子の飛散は梅雨時期が盛んである。大部分は収穫後に発病する。

発病条件 : 潜伏期間が長く、発病は収穫直前から認められる。感染期間は早生種は短い、中生、晩生種では長いので被害が多くなる。有袋栽培ではほとんど発病しない。

防除 : 梅雨期～収穫前までに 10 日間隔で 2～3 回薬剤を散布する。